

「自動車」として
「蓄電池」として

電気自動車の未来をより付加価値高く

ガソリン車にはない電気自動車のスマートな活用方法

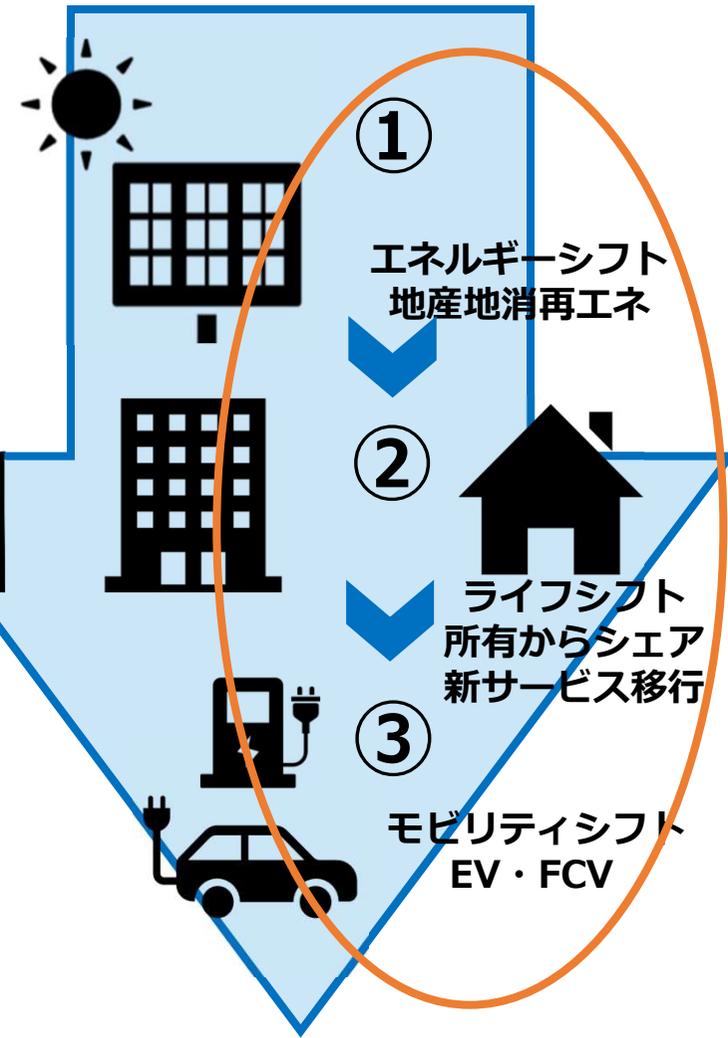
2021年2月3日更新



脱炭素やBCP対応としてEVを「動く蓄電池」として活用する “エネルギーシフト × ライフシフト × モビリティシフト” をご提案

官民で今すぐに取り組むべき課題

エネルギーシフト	化石燃料 ⇒ 再エネ由来
ライフシフト	所有 ⇒ シェアード / 価格 ⇒ エシカル
モビリティシフト	内燃車 ⇒ 電動車



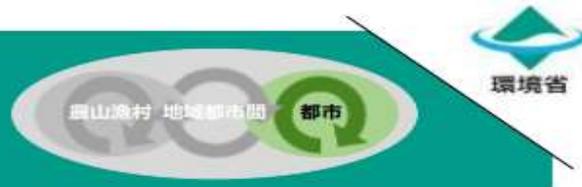
1 カーボンニュートラルに向けた動向

2 自動車業界 EVで実現するZEV（ゼロエミッションビークル）

3 REXEVが提供するEV活用の価値（導入とサービス）

4 REXEV概要とお問い合わせ先

8. 湘南電力株式会社 / 株式会社REXEV



■基本情報

企業名	湘南電力株式会社	株式会社REXEV
本社所在地	神奈川県小田原市	神奈川県小田原市 (登記:東京都豊島区)
設立年	2014年	2019年

■取り組みの背景・認識した地域課題

エネルギーを地域外から調達することで資金が流出、災害や高齢化に対する交通・電力インフラの対応力にも懸念あり

地域課題	地域資源
地域内における資金循環 <ul style="list-style-type: none"> 地域の企業・住民が支払う電気やガス・ガソリンなどの費用が地域外企業や元を辿れば海外産油国に流出している（環境省分析によると小田原市全域で年間233億円）。 	再生可能エネルギー <ul style="list-style-type: none"> 太陽光や小水力など地域には再生可能エネルギー資源が豊富に存在している。
脱炭素化 <ul style="list-style-type: none"> 化石燃料によって発電された電力やガソリンなどの消費によって大量のCO2を排出している。 	法人・個人が保有する車両 <ul style="list-style-type: none"> 地域の法人・個人が大量の車両を保有している。それらの稼働率は極めて低い。
持続可能な社会交通システム <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化により、税収は減少、社会保障費は増加し、地域インフラや社会サービスの維持が困難になる。また、地域交通は、「ドライバーの高齢化」、「移動困難者増加」などの問題を抱えている。 	

■商品・サービス内容

再生可能エネルギー等を活用した地域新電力と、その電力やEV・蓄電池を活用したe-モビリティサービスによって、エネルギーや資金の地域内循環や災害対応力向上を実現、誰もが安心して利用できる脱炭素地域交通を提供する

- 湘南電力株式会社（以降、湘南電力）は、小田原市の地元企業が出資している地域新電力会社で、地元の太陽光発電や小水力発電などの電力も調達して、神奈川県内の供給に特化して電力小売を手掛ける。収益の1%を地元の福祉・防災活動等に還元している。
- 株式会社REXEV（以降、REXEV）は、小田原市に事業中核拠点を置くベンチャー企業で、再生可能エネルギーを極力用いたe-モビリティ特化型カーシェアリングサービス事業を実現しようとしている。将来は、複数のe-モビリティをネットワーク化し、その蓄電池を活用してエネルギーの需給を最適制御することで、エネルギー消費効率化、再生可能エネルギー利用最大化、非常時の電力供給体制の構築を目指す。
- 湘南電力とREXEVは小田原市と連携し、EVシェアリングによる地域交通モデルの構築に取り組む。小田原・県西エリアにおいて、地産の再生可能エネルギーを活用したEVを用いてカーシェアリングを実施する。3年間で100台のEVを導入する。この事業は、環境省の「脱炭素型地域交通モデル構築事業」に採択されている。

● 湘南電力の調達電源



● 脱炭素型地域交通モデル構築事業



EVの普及は電源を再エネにすることでパリ協定への大義につながると判断

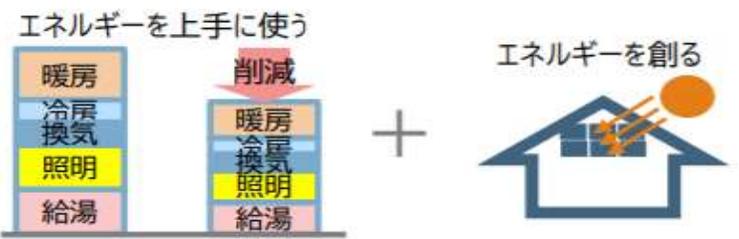
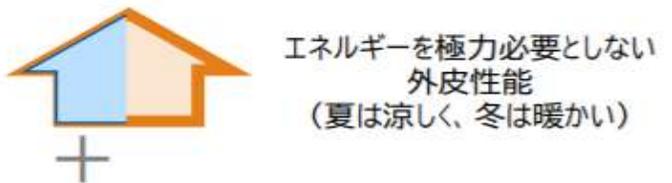


(参考) 脱炭素ライフスタイル実現に向けた取組の先行着手

- ライフスタイルに関係の深い、**住宅の脱炭素化や電動車（※）の導入支援**を先行着手済み。
 - 脱炭素ライフスタイルの実現に向けた取組を**更に加速化させていくことが必要**。
- (※) EV：電気自動車 PHEV：プラグインハイブリッド自動車 FCV：燃料電池自動車

ZEH・断熱リフォーム支援 (H30当初～)

ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）：年間消費エネルギーが正味で概ねゼロ以下となる住宅。



戸建ZEHイメージ



集合ZEHイメージ

地域再エネ+動く蓄電池 (R1当初～)



小田原市内を中心に、地域再エネで動くカーシェアリング用EV (100台予定) の導入を支援 (R2年度)



EVからの給電



ラストワンマイル配送の電動化 (R2当初～)



バッテリー交換式電動二輪車



交換式バッテリー

日本郵便の集配用二輪車2,000台の電動化を支援 (R2年度)

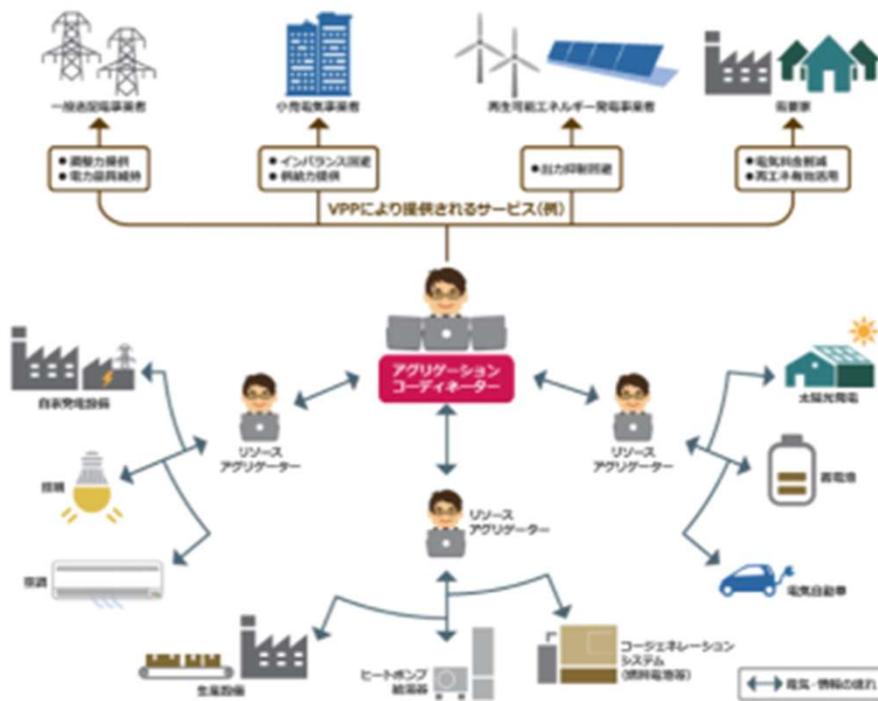
直近の弊社プレスリリースご紹介

2021年1月13日

「電気自動車を活用したVPP実証の実施について」

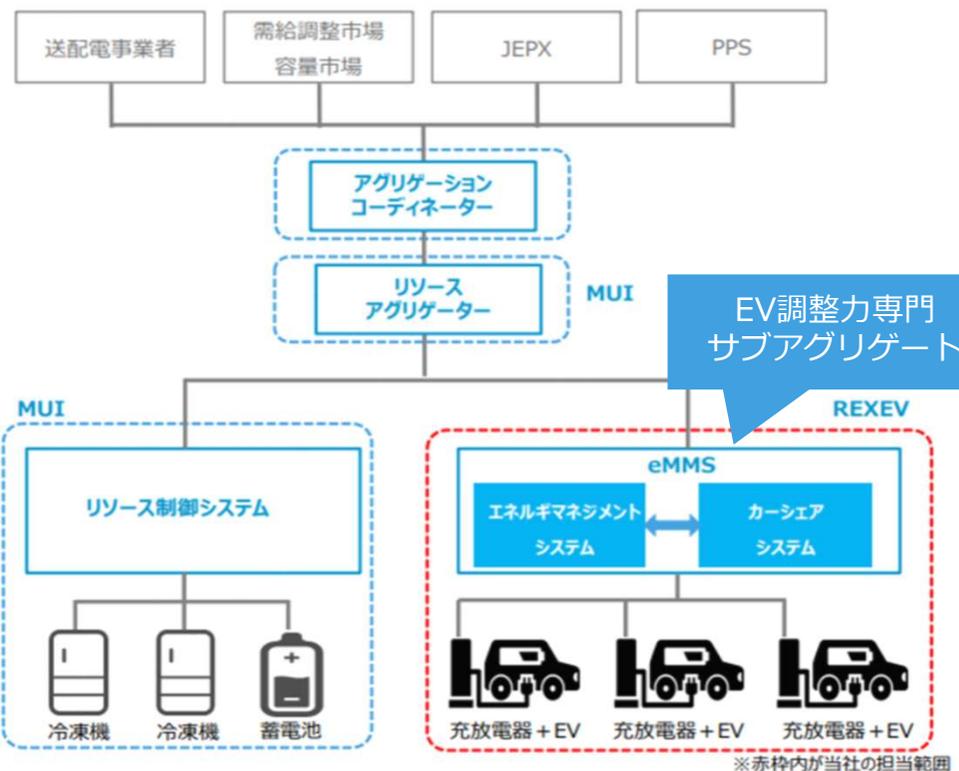
REXEVはMUIユーティリティイノベーション株式会社と電気自動車を電力需給調整に活用するため、当社で構築したシステムにて電力取引を想定した指令に基づく制御を行い、EVのVPPリソースとしての技術的評価を実施します。

- eMMS を用いた VPP 機能の構築及び機能検証（上位電力システムとの連携や充放電制御の指令）
- EV をカーシェアと VPP で並列運用する場合の成立性検証
- EV の充放電制御量に関するポテンシャル評価、検証など



VPP のイメージ (経済産業省の HP より)

全体構成図

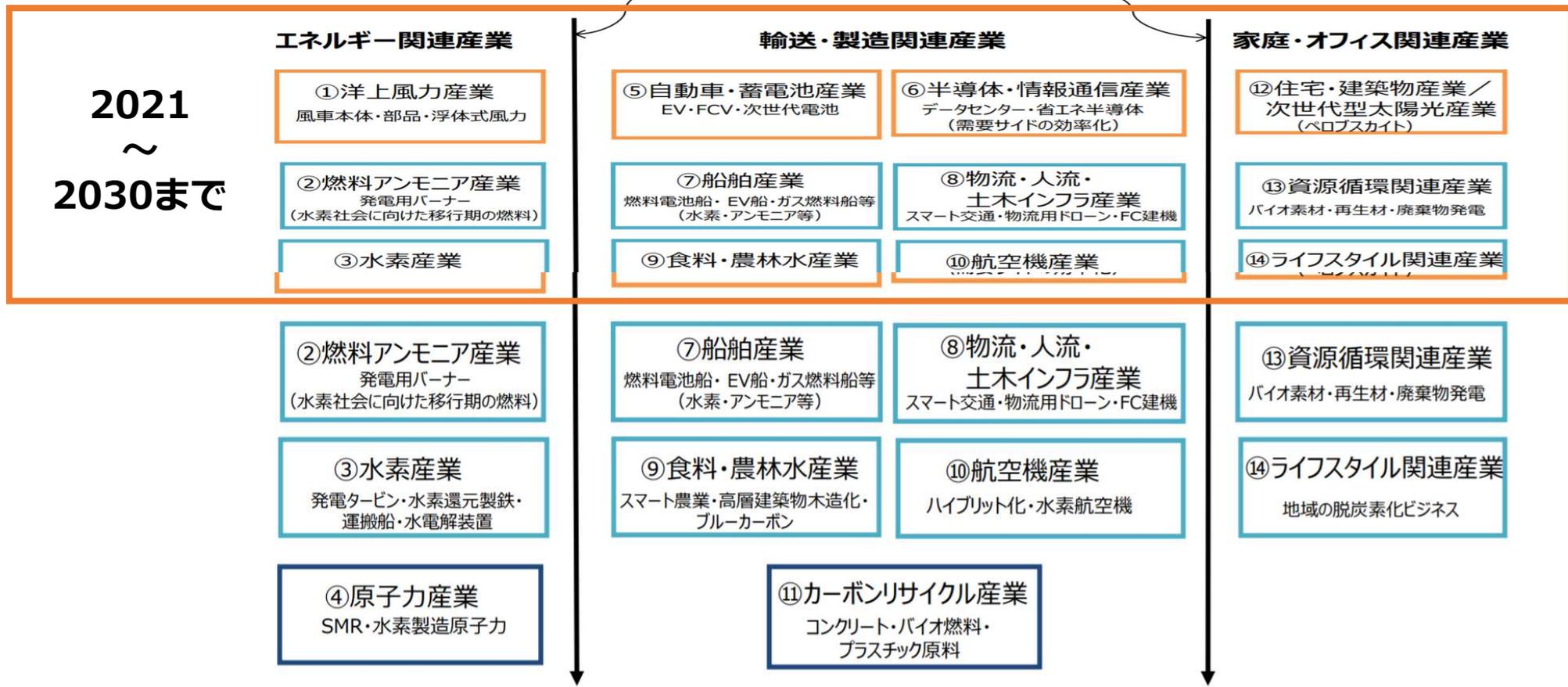


自動車・蓄電池（EV）
導入については別途改定時
に深掘りがある様子

5. 分野毎の「実行計画」（課題と対応、工程表）

※来春のグリーン成長戦略の
目標や対策の更なる深掘りを検討。
（自動車・蓄電池産業など）

足下から2030年、
そして2050年にかけて成長分野は拡大



増加・甚大化する災害に対するレジリエンスの強化

2019年台風19号（千葉県）、2020年台風10号（熊本県）でEV給電防災活動に注目
 EV40kWh×2台、AC6kWのPV（20kWh/日）で3日活用する場合の電力は約140kWh
 ※仮に12h/日限定使用で3日間36h、平均的に電力を確保できる出力は3.9kW程度

3.9kW出力分の電力

利用可能数

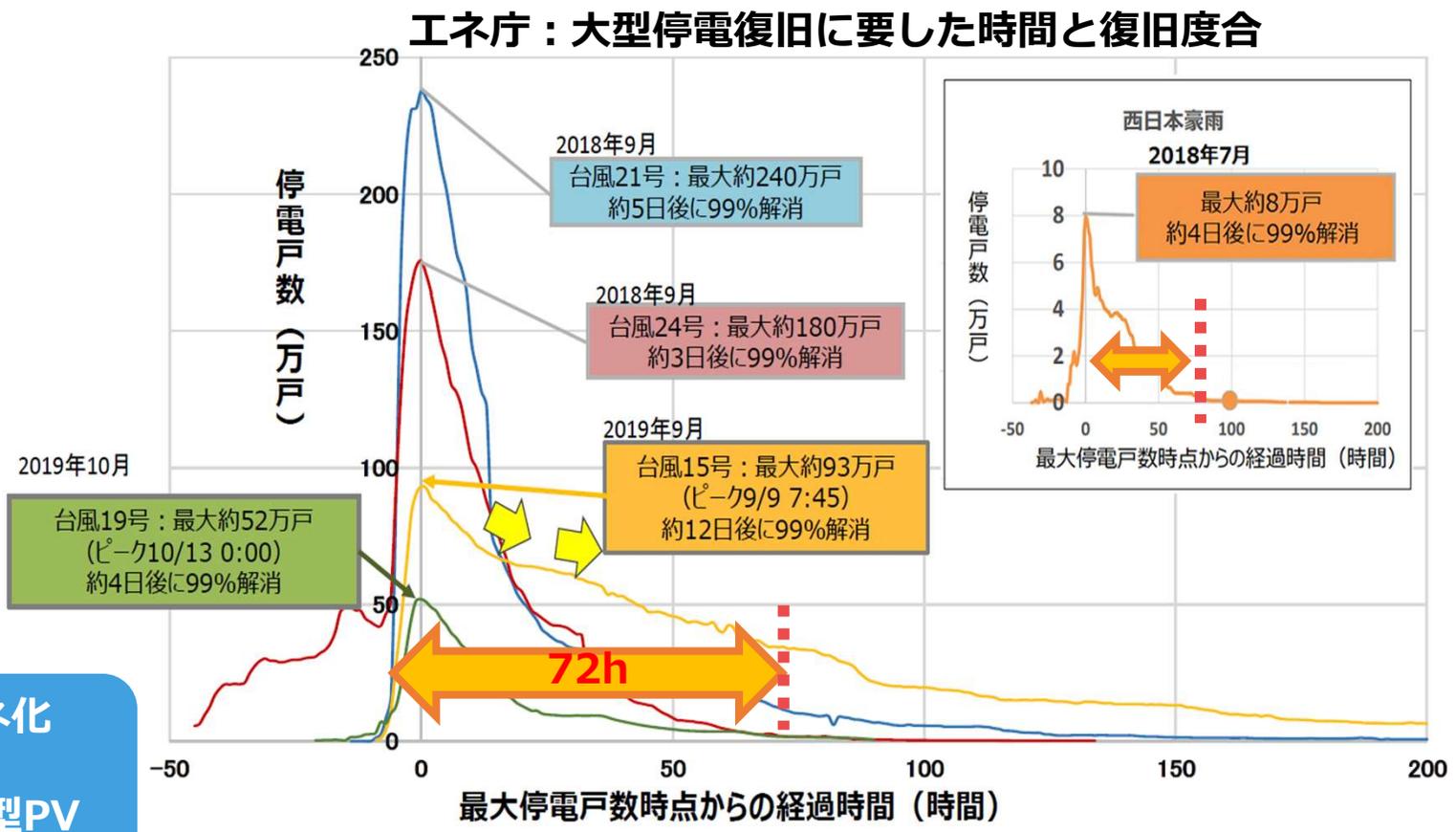
電灯	×	64個
スマホ	×	390台
DesktopPC	×	39台
LaptopPC	×	194台

各種消費電力想定

電灯	: 60W
スマホ充電	: 10W
DesktopPC	: 100W
LaptopPC	: 20W



電力契約の再エネ化
 +
 屋根やカーポート型PV



地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する避難施設等への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業



【令和3年度要求額 9,200百万円（新規）】



感染症対策を推進しつつ災害・停電時にも避難施設等へのエネルギー供給が可能な再生可能エネルギー設備等の導入を支援します。

1. 事業目的

昨今の災害リスクの増大に伴い、災害・停電時の避難施設等へのエネルギー供給等が可能な再エネ設備等を整備し、併せて避難施設等への高機能換気設備の導入の推進や感染症対策を踏まえた地域の防災体制構築を推進することにより、災害や感染症に強い脱炭素地域づくりを推進する。

PPA活用など再エネ価格低減等を通じた地域の再エネ主力化・レジリエンス強化促進事業 (一部 総務省・経済産業省 連携事業)



【令和3年度要求額 18,600百万円（4,000百万円）】環境省



再エネ・蓄電池の導入及び価格低減促進と調整力の確保等により、再エネ主力化とレジリエンス強化を同時に向上させます。

1. 事業目的

- ・ オンサイトPPAモデル等の新手法による再エネ・蓄電池導入を支援し、価格低減を図りつつ、地域の再エネ主力化を図る。
- ・ 公共施設やその他の需要側設備等のエネルギー需要を遠隔制御することにより、変動制再エネ（太陽光、風力等）に対する地域の調整力向上を図る。
- ・ デジタル分野の主要排出減であるデータセンターのゼロエミッション化・レジリエンス強化に向けた取組を促進する。

2. 事業内容

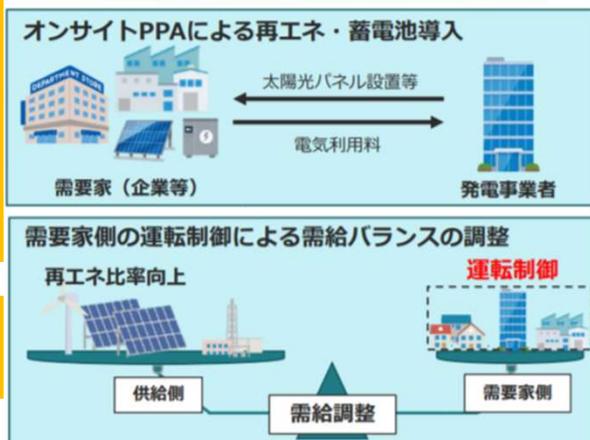
- (1) 公共施設の設備制御による地域内再エネ活用モデル構築事業
- (2) 再エネ主力化に向けた需要側の運転制御設備等導入促進事業
 - ① オフサイトから運転制御可能な需要家側の設備、システム等導入支援事業
 - ② 再エネの出力抑制低減に資するオフサイトから運転制御可能な発電側の設備、システム等導入支援事業
2. 離島における再エネ主力化に向けた運転制御設備導入構築事業
- (3) 平時の省CO2と災害時避難施設を両立する直流による建物間融通支援事業
- (4) ストレージパリティの達成に向けた太陽光発電設備等の価格低減促進事業
- (5) 再エネの価格低減に向けた新手法による再エネ導入事業
- (6) データセンターの脱炭素化・レジリエンス強化促進事業

* EVについては、(1)・(2)-1-①・(2)-2・(3)・(4)のメニューにおいて、通信・制御機器、充放電設備又は充電設備とセットで外部給電可能なEVに従来車から買換える場合に限り、蓄電容量の1/2(電気事業法上の離島は2/3)×2万円/kWh補助する。(上限あり)

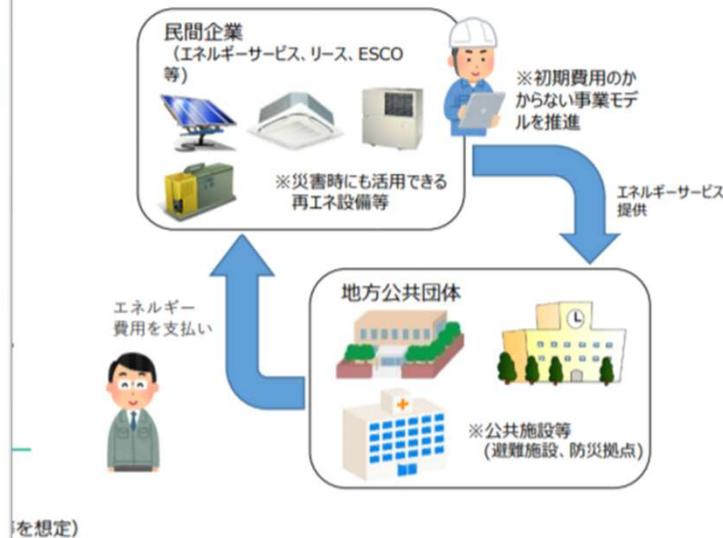
3. 事業スキーム

- 事業形態 間接補助事業（補助率、2/3*、1/2*、1/3）（※一部上限あり）/委託事業
- 委託・補助先 地方自治体、民間事業者・団体等
- 実施期間 (1)・(2)・(3)令和2年度～令和6年度、(4)・(5)・(6) 令和3年度～令和6年度

4. 事業イメージ



4. 支援対象



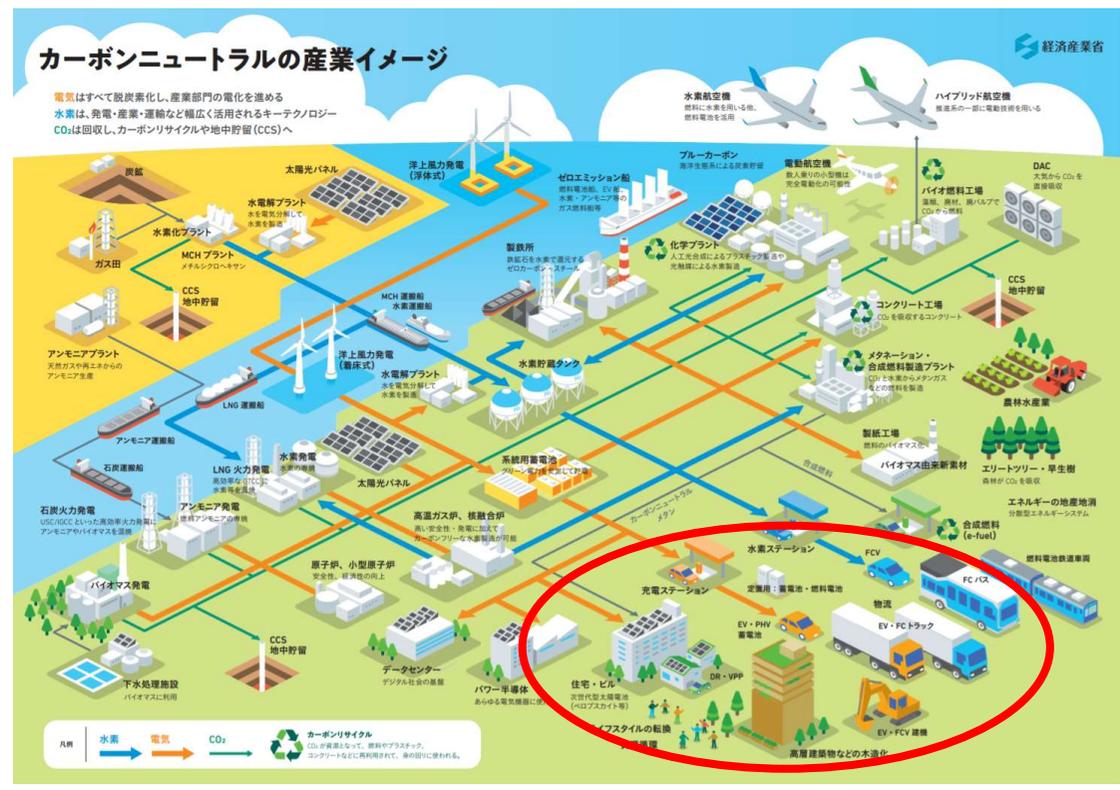
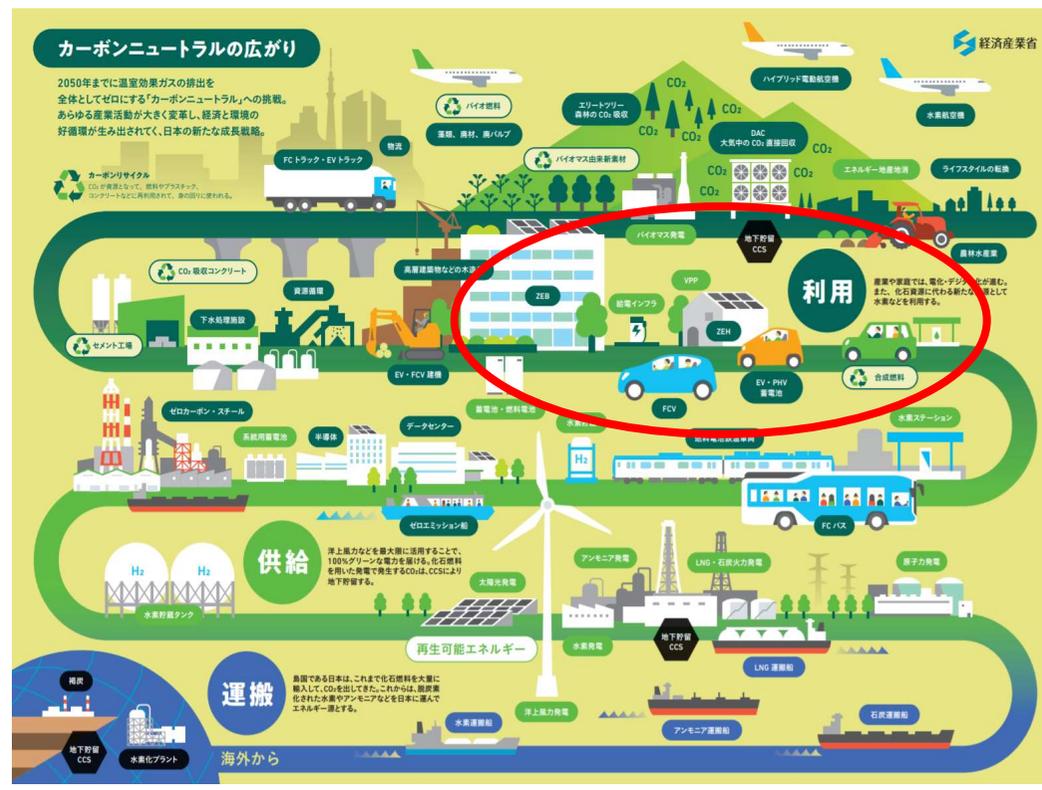
(を想定)

2020年度三次補正予算 再エネ電気100%+EV+V2X

(参考) 経産省カーボンニュートラル全体イメージ

新・三種の神器「再エネ（PV・風力・再エネ電力）+EV（調整力）+V2X（制御）」

標準的な導入パッケージモデルに！！



カーボンニュートラルの広がり
<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201225012/20201225012-4.pdf>

カーボンニュートラルの産業イメージ
<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201225012/20201225012-4.pdf>

EV調整力普及拡大 ⇒ 再エネ導入ポテンシャル向上 ⇒ 分散電源再エネの利活用機会増 ⇒ 脱炭素

1 カーボンニュートラルに向けた動向

2 自動車業界 EVで実現するZEV（ゼロエミッションビークル）

3 REXEVが提供するEV活用の価値（導入とサービス）

4 REXEV概要とお問い合わせ先

加速しているモビリティシフト（自動車社会の変化）

エネルギーシフト、ライフシフトにもつながっているモビリティシフト

排気ガスを排出しないゼロエミッション車(EV)普及

エンジン車



EV・FCV

自律走行型のモビリティ社会(自動運転車)

ドライバー運転



自動運転

シェアリング・ライドシェア等を通じた「移動」価値の提供

所有



利活用

分散型電源としての「エネルギー」価値の提供

不稼働時(提供価値なし)

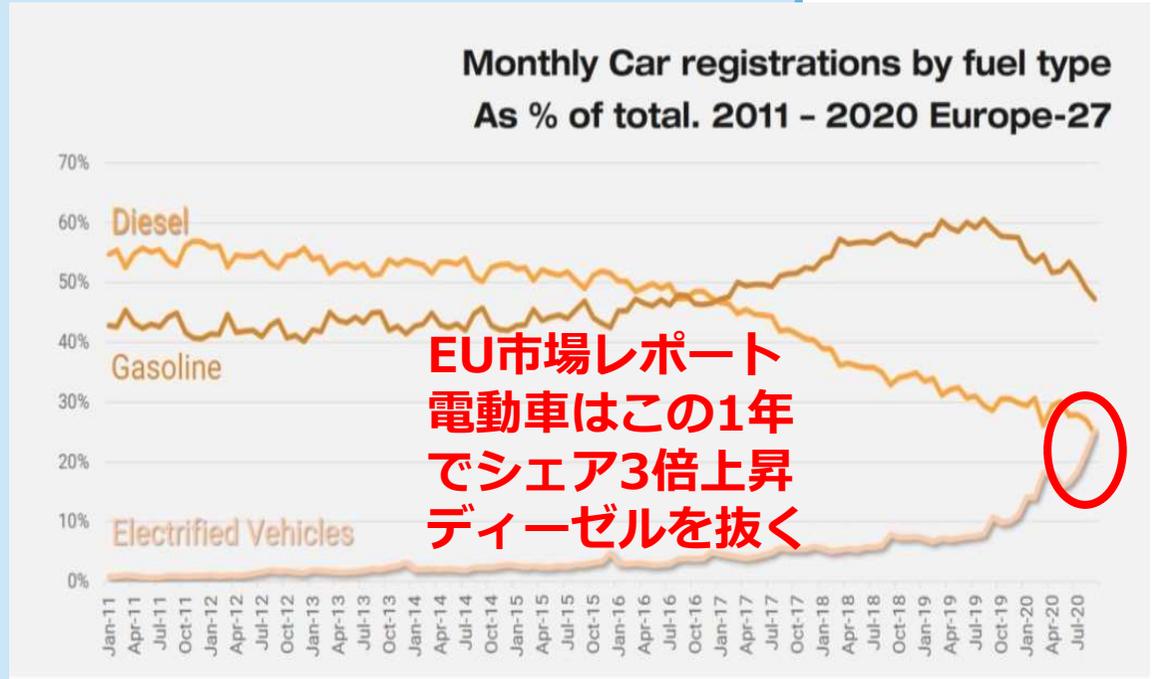


不稼働時(エネルギー価値)

環境対策は経済成長、世界中のモビリティシフト急加速でEV経済圏の覇権を各国が競う

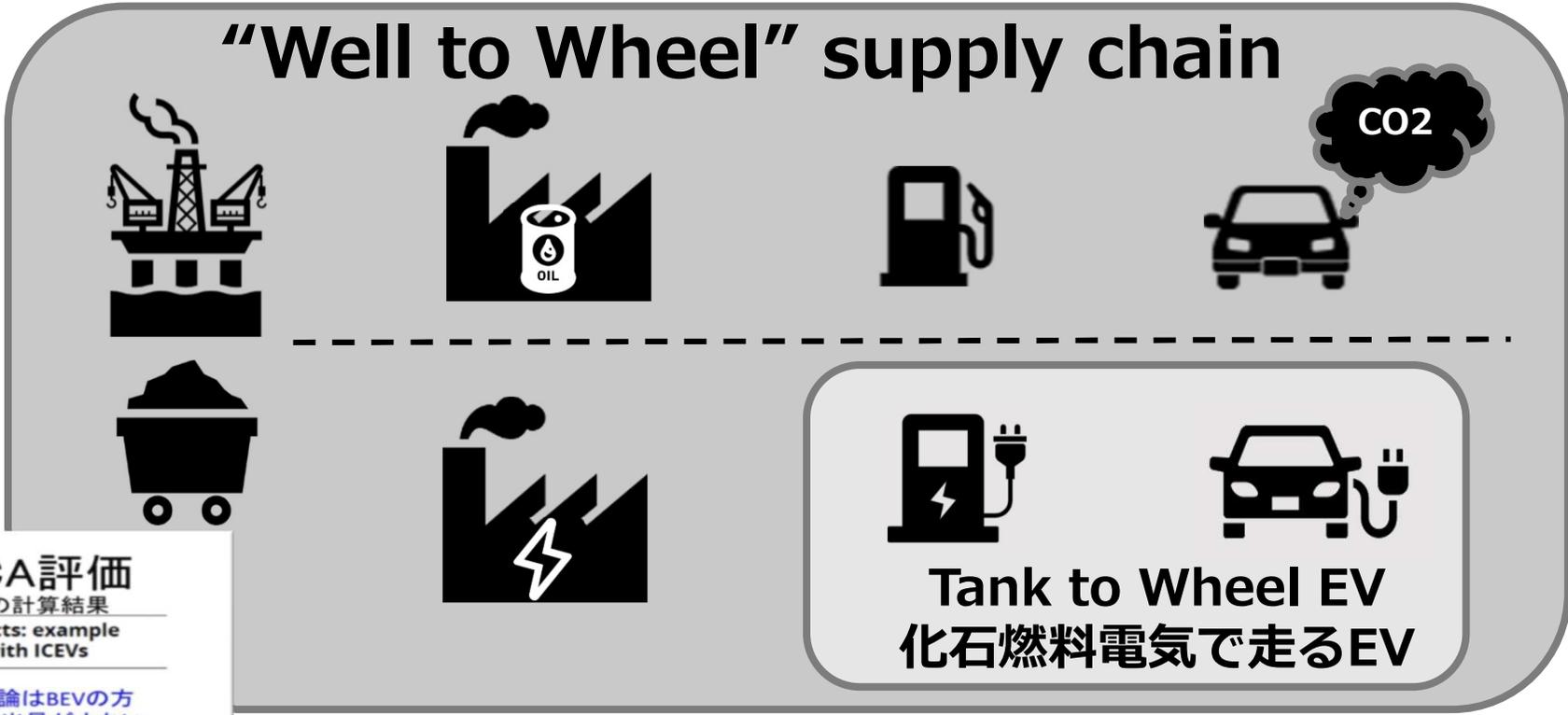
-  イギリス : 2030年 (PHVは2035年禁止)
-  フランス : 2040年
-  スペイン : 2040年
-  ノルウェー : 2025年
-  スウェーデン : 2030年
-  オランダ : 2030年
-  アイルランド : 2030年
-  アイスランド : 2030年
-  中国 : 2035年
-  日本 : 2035年 (2021/1/18菅総理発表)

燃費規制やカーボンプライシングも導入検討中



JATO ジェイトージャパン協力

“Well to Wheel” supply chain



Well to Wheel
= 通称WTW

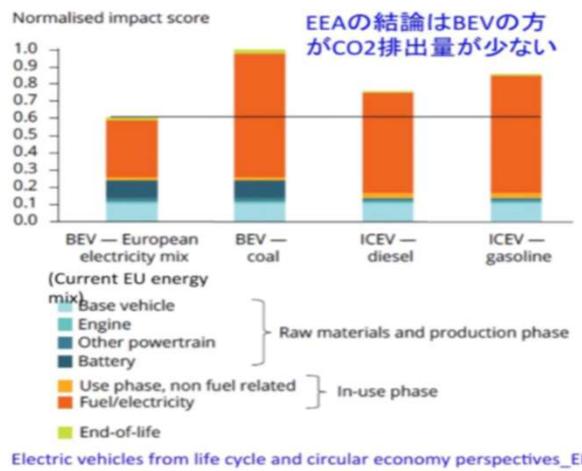
Well : 井戸 (採掘)
Wheel : ホール (排ガス)

Tank to Wheel EV
化石燃料電気で走るEV

CO₂排出量のLCA評価

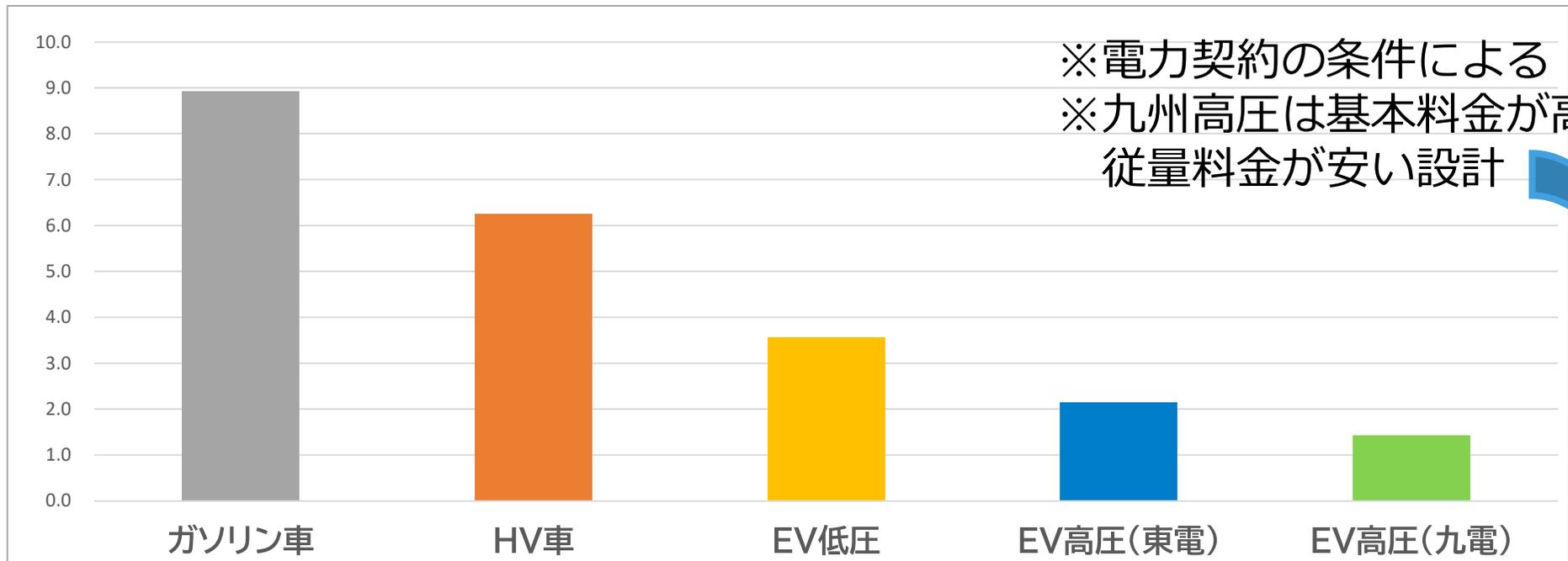
EEA(欧州)の計算結果

Figure 6.1 Climate change impacts: example comparison of BEVs with ICEVs



欧州のエネルギーミックス上のLCAは内燃車よりもBEVが低排出となる (EEA欧州資料)





車の種類	燃費・電費 km		燃料電気 円	1kmあたり 円
	Lあたり km	kWhあたり km		
ガソリン車	14		125円/L	8.9
HV車	20		125円/L	6.3
EV低圧		7	25円/kWh	3.6
EV高圧 (東電)		7	15円/kWh	2.1
EV高圧 (九電)		7	10円/kWh	1.4

※EVの場合、基本料金上昇抑制には**充電スケジュールのアナログ運用管理かエネマネ制御**が不可欠

カーシェアリング利用コストと地域経済循環の可能性

車所有者とカーシェア利用者のコスト比較イメージ

所有者の月額コスト

■ 都市部

ローン	: 40,000
保険	: 4,000
メンテ	: 5,000
駐車場	: 30,000
燃料	: 3,000
合計	: 82,000

■ 中堅市街地

ローン	: 40,000
保険	: 4,000
メンテ	: 5,000
駐車場	: 15,000
燃料	: 3,000
合計	: 67,000

月走行距離想定

3,000円 = 24L = 300~350km

カーシェア利用者の月額コスト

■ 地域共通

利用料	: 20,000~
利用時間	: 月25h程度 ※週6h (隔週利用で週12h)
燃料	: 事業者によるが無料も多い

■ 定義

レンタカー	: 有人拠点都度契約、日中貸出返却、燃料有料
カーシェア	: アプリ予約24時間無人貸出返却、燃料多

■ メリット

平日は公共交通機関で通勤、週末カーシェア
早朝や夜中でも借りて返せる
無人なので順番待ち、書類記入、乗車準備時間不要
外出中周囲を気にしないオンラインミーティングも

■ デメリット

所有派、近隣にスポットがないユーザーの縁

ニーズのある地域では
カーシェアインフラの
整備が地域貢献や地域
経済循環に直接繋がる

- ・ 駅付近集合住宅密集地
- ・ 大学／専門学校付近
- ・ 駅遠い大型住宅街区
- ・ 広域観光資源の存在
- ・ 地域商業連携相乗効果

まちづくり、地方創生に資する事業との結び付けも可能

1 カーボンニュートラルに向けた動向

2 自動車業界 EVで実現するZEV（ゼロエミッションビークル）

3 REXEVが提供するEV活用の価値（導入とサービス）

4 REXEV概要とお問い合わせ先

REXEVシステムの導入メリット・活用要素



コスト削減

- シェアにより維持コスト分散
- 車両管理等の手間削減
- リモートワーク・オンライン対応による車両台数適正化検討



地域貢献

- 住民等へのモビリティ解放による地域貢献
- 非常時における電源活用



環境性

- EV導入による環境貢献
- 再エネの調整・導入促進貢献
- 再エネのEVへの充電 (Well to Wheel)



効率化

- カーシェアによる追加マネタイズ
- エネマネによるエネルギー効率化



新規性

- 本業とeモビリティの融合による新たな事業やサービスの創出
- 自社ブランドEVカーシェア事業化



安価な調整力

- 動く蓄電池によるVPP創出
- モビリティサービスによる投資回収により安価な調整力創出

(参考) 社有車のEV化/社有車非稼働週末シェア全体像

動

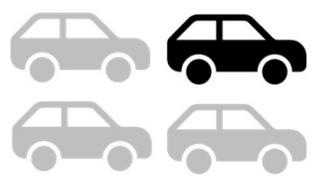
車両最適化分析
※ケースバイで実施

EV車両の導入計画

EVカーシェアリング導入・事業実施

『車両として』
EVカーシェアリング
移動価値の最大化

稼働率分析
コスト削減実施



EVの導入



- ✓ 充電器
- ✓ 充放電器の設置

平日
業務車両
職員利用



その他法人とのシェアも可

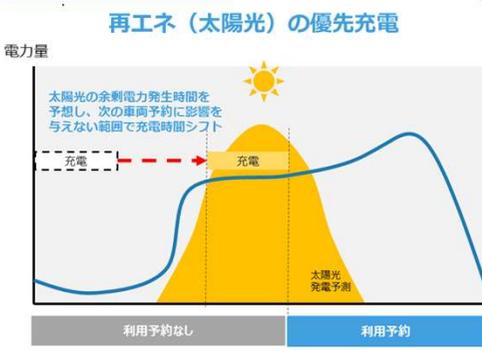
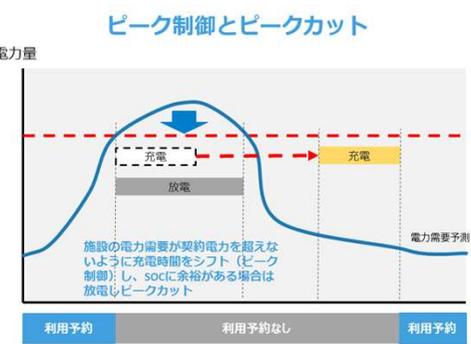
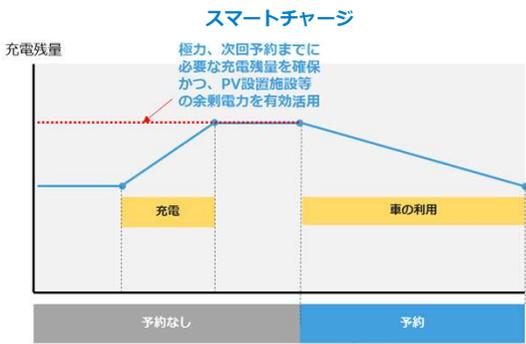
土日祝
地域住民・観光客
土日営業近隣法人



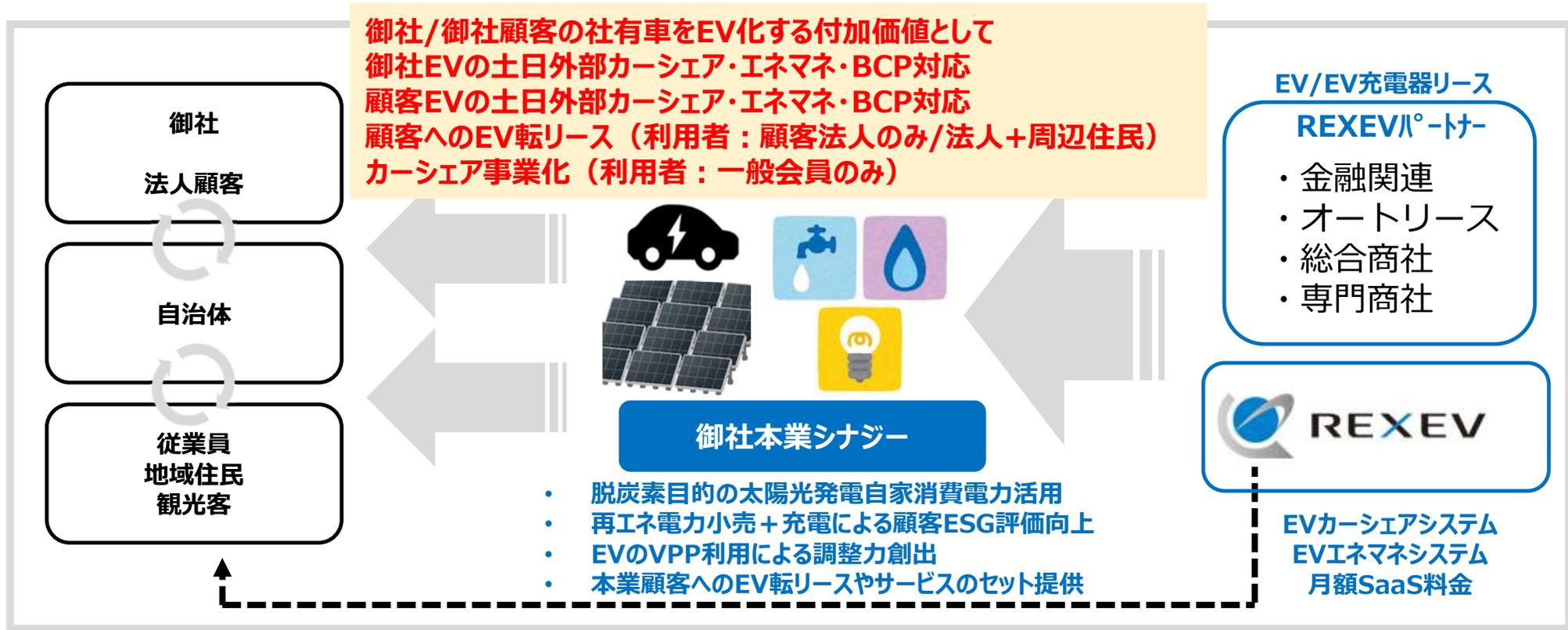
※新事業オプションとして実施可

静

『蓄電池として』
EVエネルギーマネジメント
エネルギー価値の最大化
大容量バッテリーBCP対策



(参考) ビジネス化のイメージ



	メリット	デメリット	顧客獲得サポート	内容
御社	<ul style="list-style-type: none"> 競争力ある顧客提案可能 地域貢献に寄与 	外部シェア事業化 問合せ現地対応	車両最適化診断	社有車の稼働分析を行い、適切な保有台数を検証
法人顧客	<ul style="list-style-type: none"> EV化+コスト削減可能性 再エネ/RE電力有効利用機会 BCP対策強化 利用者DX 働き方改革 ※業務運行管理削減 		車両・充電器リース	一括で購入されない場面でサポート
			補助金活用	リース補助金があればリース会社がサポート

具体的なビジネススキームについては別途個別の打合せにてお願いいたします

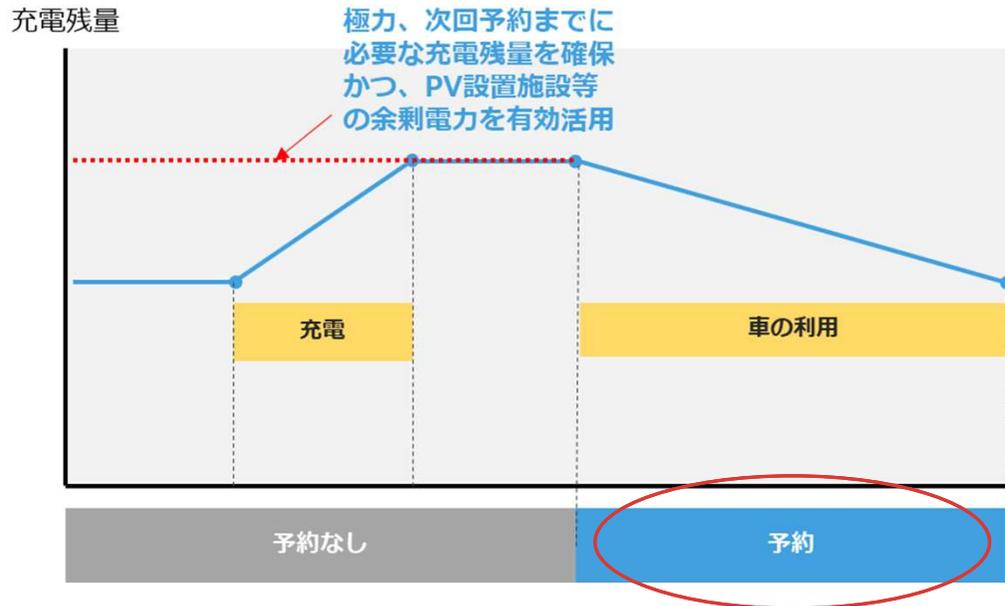
① スマートチャージ

- ✓ カーシェアリング利用とバッテリーの効率利用両立
- ✓ 原則として予約時間中に途中充電をしないで利用できるように充電・予約を制御

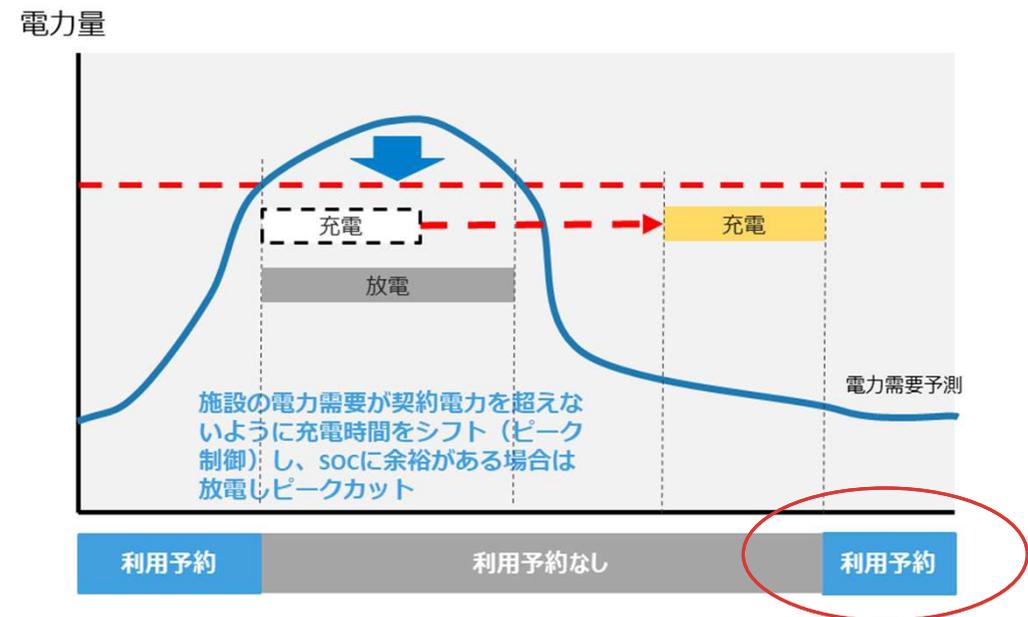
② ピーク制御・ピークカット

- ✓ 施設の電気料金が上昇しないように、ピークを回避して充電・放電制御
- ✓ 施設のピークが発生する時間帯を予測し、放電することで、契約電力の上昇を回避

エネルギーマネジメントのイメージ



ピーク制御とピークカット

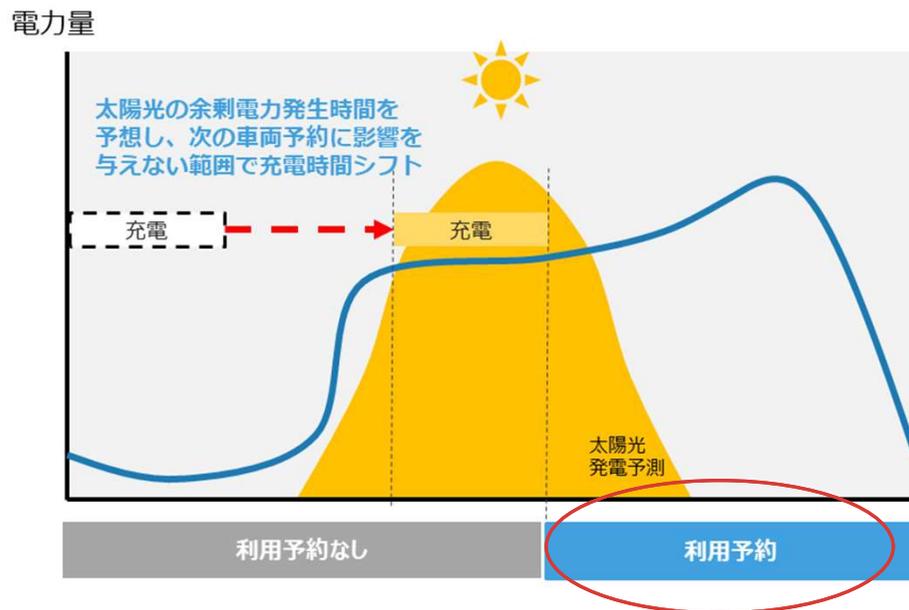


Point : EVの利用予約状況・走行予想距離を考慮したエネルギーマネジメント

③ 太陽光余剰電力優先充電

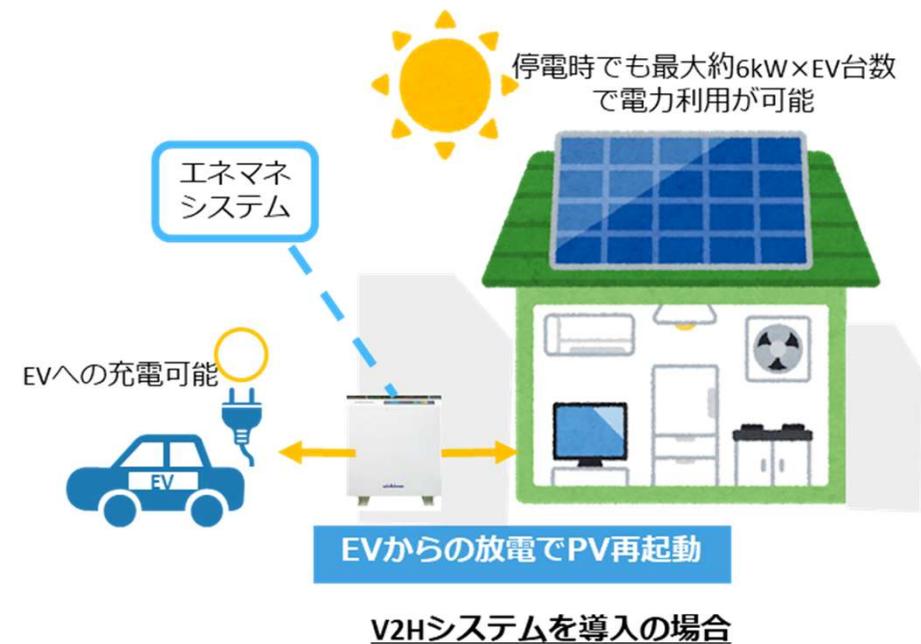
- ✓ 施設に太陽光発電設備等が設置されている場合、余剰電力が発生する場合に充電することで全体の再エネ利用率を向上
- ✓ 需要予測および太陽光発電予測による余剰電力を予測

再エネ（太陽光）の優先充電



④ 停電時EV放電による太陽光PCS自動復帰

- ✓ EVからの放電により、系統解列後に停止したPVシステムの低圧5kWクラスPCSの自動復帰機能を作動させることが可能（V2H機器および自家消費システムで低圧分電盤に繋がっている場合）



初期費用ゼロでPVを導入できるPPAサービスを合わせてご提案することも可能

PV等変動性再エネの系統余剰を吸収する上げDRへ展開

弊社の「eemo (イ-モ)」EVカーシェアリングアプリ

- 車両の予約、鍵の解錠/施錠、利用料金の決済（クレジットカード）、会員情報の管理とカーシェアリングに必要な一連の動作を全てスマートフォンアプリで完結できます。
- 電気自動車に特化した機能として、充電残量の管理機能や再生可能エネルギー利用率の表示機能等を備えています。



EVステーションで使用される発電所を紐付けしてイメージを表示させることが可能

- EVステーションの再生可能エネルギー利用率を数値で表示
- 将来的にはダイナミックプライシングにも活用



貸出時間における充電残量から走行可能距離を算定

予約時間やこれまでの利用履歴などから、予想走行距離を算定

予想走行距離と比較し、途中で充電が必要かそうでないかをユーザに事前に情報提供

事業開始に向けたソリューションもご提供

- システム開発費用のコスト低減、もしくは開発不要
- 小田原EVシェア事業を立ち上げ、運営している弊社が御社を支援

システム提供以外のサポート

- 事業導入/運用に関する支援活動
 - ✓ 車両保有台数最適化診断
 - ✓ 事業許可取得支援
 - ✓ 事業計画作成支援
 - ✓ 実施場所の選定支援
 - ✓ ステーション設置工事支援
 - ✓ 業務フロー構築支援
 - ✓ シェア会員獲得支援

貴社・貴社顧客にて実施頂く内容

- 自家用車有償貸渡事業許可所得
- 事業計画の策定
- 実施場所の選定
- 必要物品の調達
- ステーション設置工事（充電器等）
- 車両の配備
- 会員の獲得、告知活動
- 定期清掃、現場運用
- 保険、点検等の外部事業者管理

- 弊社会員向けコールセンターの活用
24時間365日対応
※eemo（弊社ブランドアプリ）の場合
※御社ブランドの場合は御社にてご準備

下記の他、いくつかの車種対応を検討中

	メーカー	製品名	航続距離 (電池容量)	定員	放電 可否	車両価格 (新車)
	日産自動車	LEAF (新型)	250~400km (40~62kWh)	5	○	300万円 ~500万円
	日産自動車	LEAF (旧型)	100~180km (24~30kWh)	5	○	-
	テスラ (予定)	Model3	350~500km (55~75kWh)	5	×	500万円 ~700万円

乗用車の拡充はもちろん、小型EV、eコミュニティバス、e配送車両など今後の時流や利便性を加味して対応検討を行ってまいります。

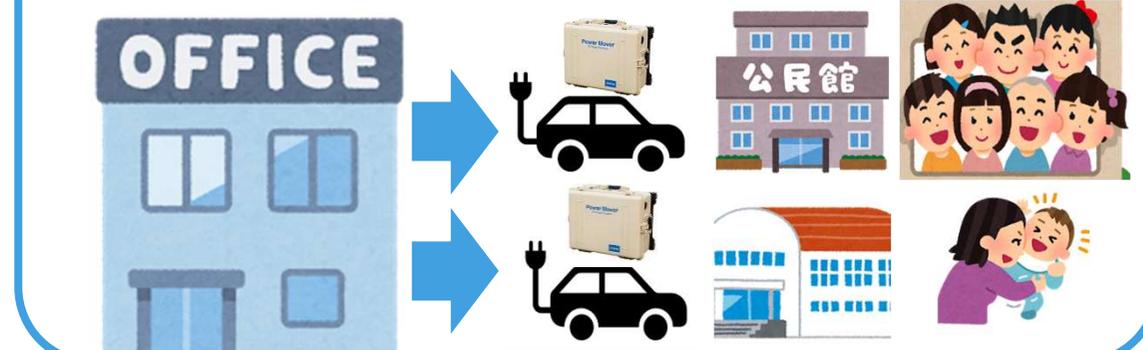
● ご希望や用途に合わせて、充電器のパターンを選択

	パターン	メーカー	製品名	充電出力	放電出力	スマートチャージ ピーク制御 再エネ優先 充電	建物への給電 ピークカット 停電時PV自 動復帰	移動先での給電
	V2H	ニチコン	EVパワー ステーション	~6kW	6kW	○	○	×
	普通充電 器+可搬 型給電器	Panasonic ニチコン	ELSHEEV hekia S パワームー バー	~6kW	4.5kW (1.5kW×3)	○	×	○

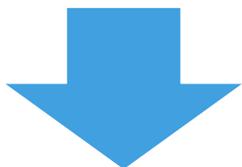
V2HのBCP対策



パワームーバー災害時派遣



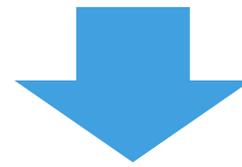
皆様と皆様のお客様を通じた脱炭素地域社会の実現
再エネ充電型EVの普及をサポートいたします！



防災力強化



脱炭素型地域交通



管理コスト削減



地域再エネ普及

ネット・ゼロ宣言
ビヨンド・ゼロ宣言

持続可能な我らのまちづくり
ローカルSDGsへの貢献

1 カーボンニュートラルに向けた動向

2 自動車業界 EVで実現するZEV（ゼロエミッションビークル）

3 REXEVが提供するEV活用の価値（導入とサービス）

4 REXEV概要とお問い合わせ先

『全ての人々が限界費用ゼロで移動できる持続可能な社会インフラの実現』

1 EV特化型カーシェアリング(eemo)

小田原で地域で生まれる再生エネを活用したEVカーシェアを展開



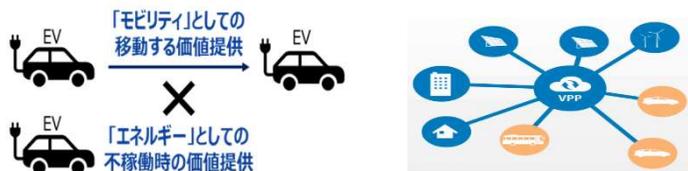
2 EV管理プラットフォーム提供/エネマネ事業

e-モビリティの稼働管理及びe-モビリティ・施設の電力需要予測や太陽光発電予測を行い、最適な充放電制御をエネマネシステムが実施



3 e-モビリティを活用したVPP事業

e-モビリティを蓄電池（動く蓄電池をマネジメント）として活用した不稼働時の価値創出



本社所在地 : 東京都千代田区神田淡路町1-9-5

創業 : 2019年1月

資本金 : 397.5百万円

創業メンバー : 代表取締役社長 渡部 健

取締役 藤井 崇史

取締役 盛次 隆宏

社員数 : 11名

事業概要 : EV特化型シェアリング事業

EVマネジメントプラットフォーム提供事業

EVエネルギーマネジメント事業

EVリソースアグリゲーション事業

エネルギーからモビリティの未来を見据える
電力エネルギーの専門集団

シェアリングとエネマネが融合したプラットフォームを自社開発

e-モビリティの稼働管理・最適な充放電制御を行いモビリティからエネルギーまでワンストップでサービス提供

1

2019～
EVカーシェア事業
～eemoを展開～



- 神奈川県小田原市・箱根町を中心として地域特化型EVカーシェアリング事業「eemo (イーモ)」を展開
- REXEVがカーシェア事業者となり、EVや充電器／充放電器を資産として保有してカーシェア事業を展開
- 様々な形態のカーシェアを実施

事業ノウハウや機能の提供などのご提供

2

2020～
EVシェア&管理システム
+EVエネマネシステム
パッケージ提供事業



自社車両のEV化ニーズに対応

EVシェア事業立ち上げニーズに対応

EVエネマネ提供事業

eemoブランドによる
フランチャイズ式の展開

自社ブランド立ち上げ方法

システム開発投資無しで
始められるEVシェア
&エネマネ事業

システム投資を最小限
に抑えて始められる
EVシェア事業

これらすべてのEVをアグリゲートし、VPPとして活用
EVは移動手段だけでなく社会インフラへ進化

EV特化型カーシェアリング「eemo (イ-モ)」

- 「eemo」は、小田原を中心とした県西エリアにて持続可能な交通システムを作ることを目的としたサービス
- CO2の排出量削減/再生可能エネルギーの導入拡大/災害に対するレジリエンス強化等を意図
- 同時に、地域に暮らす方の新しいライフスタイルを後押しするようなサービスになることを目指している

eemoが目指す未来

あらゆる人が、もっと自由に、もっと便利に移動できる未来。

地域社会が、環境を守りながら、発展し続けていく未来。

eemoはそんな未来のための交通システムです。

電気自動車のカーシェアリングだから、いくら移動しても、まちの空気を汚すことはありません。

しかもeemoの電気自動車は、小田原でつくられた再生可能エネルギーで主に充電され、停車時にはエネルギーリソース、災害時には地域の非常用電源として活用されます。



地域で発電した電気で走る

eemoの電気自動車は小田原でつくられた再生可能エネルギーを最大限に活用。

エネルギーがつくられる過程からCO2を出さないというサステナビリティを追求しつつ、エネルギーの地産地消で、地域のなかに新たなサイクルをつくりだします。



小田原・箱根を中心としたエリアに特化

eemoは、小田原・箱根を中心としたエリアの交通サービスです。小田原市、湘南電力、REXEVが共同で取り組んでいます。eemoの電気自動車はただの移動手段ではなく、地域の「蓄電池」。停車時には、再生可能エネルギーを効率よく使うためのエネルギーリソースとして活用され、小田原市の運営する施設の電気料金軽減に貢献します。また、災害発生時には非常用電源として貸し出されます。



電気自動車専用のカーシェアリング

eemoは電気自動車を専門で扱うカーシェアリングです。運転中に充電が必要かどうかのチェックや、充電スポットの案内など、サポートが充実しているので、電気自動車に乗ったことがない方も安心してご利用いただけます。

「reemo」EVステーション

- 21年1月時点で、新型LEAF34台を運営、2月末までに+13台、合計47台へ
- 22年、23年で100台まで拡大予定

小田原エリア



箱根エリア



No.	ステーション	LEAF台数
1	緑町駐車場 ステーション	2台
2	小田原駅西口駐車場ステーション	1台
3	栄町三丁目 ステーション	1台
4	寿町 ステーション	3台
5	UMECO (小田原駅東口) ステーション	2台
6	パレスオダワラ ステーション	1台
7	リーカル小田原 ステーション	1台
8	ダイナシティウエスト ステーション	1台
9	小田原百貨店板橋 (箱根板橋) ステーション	1台
10	藤棚駐車場 (小田原城南) ステーション	1台
11	リパティ小田原本町第二 ステーション	4台
12	城山第二 (小田原駅西口) ステーション	1台
13	城山第一 (小田原駅西口) ステーション	1台
14	鈴廣かまぼこの里 (風祭) ステーション	2台
15	扇町 (小田原ガス) ステーション	3台
16	芦子橋交差点ステーション (小田原衛生)	5台
17	小田原市役所ステーション	2台
18	小田原郵便局前ステーション (旧エコリア)	1台

No.	ステーション	LEAF台数
1	日帰り温泉和泉 (箱根湯本) ステーション	1台
2	ザ・プリンス 箱根芦ノ湖ステーション	1台

「eemo」EVステーション外観



小田原市役所ステーション



城山第一ステーション



芦子橋交差点ステーション



小田原百貨店 板橋ステーション

● 地元小田原企業と連携してEVを活用した様々なセクターカップリングサービス実施

湘南のでんきeemo割

- 「湘南のでんき eemo 割」は、湘南電力「湘南のでんき」と REXEV「eemo カーシェアリング」を合わせて利用することで、「湘南のでんき」の電気料金に割引を受けることが出来るサービス。



EVでワーケーション応援セット

- REXEVとRecampは、Recampが運営するキャンプ場「Recamp おだわら」にて、自然の中でのワーケーションをEVからの電気供給で支援する「EVでワーケーション応援セット」の提供を開始。
- eemo利用者は無償でEVワーケーションセットが利用可能。



小田原市でのセクターカップリング②

- 地元小田原企業と連携してEVを活用した様々なセクターカップリングサービス実施

小田原市のSDGs体感事業 「おだちん」対応

- REXEVが運営する電気自動車カーシェアリング「eemo」の小田原市内18ヶ所のステーションを、小田原市がSDGs体感事業として実施する「おだちん」のスポットとして登録。



エコな箱根たび

- REXEVと近畿日本ツーリストコーポレートビジネスは、箱根の厳選宿(5施設)の宿泊と電気自動車カーシェアリング「eemo」のセットプラン「エコな箱根たび」の販売を開始。



REXEVが皆様と共に取り組む課題



 **3** すべての人に健康と福祉を
自動運転をいち早く取り入れたサービスを開発し、**交通事故の発生ゼロ**を目指す

 **7** エネルギーをみんなにそしてクリーンに
EVを再エネの調整力として活用することで**再エネの利用拡大機会を創出**

 **9** 産業と技術革新の基盤をつくろう
eモビリティインフラサービスの多様化、**eモビリティの付加価値創造**

 **11** 住み続けられるまちづくりを
都市部、周辺地域、過疎地域それぞれの**交通アクセスを、より環境に配慮し安価で安全に**

 **13** 気候変動に具体的な対策を
気候関連災害や自然災害に対する**強靱性及び適応の能力を強化する**

 **17** パートナースhipで目標を達成しよう
パートナーシップ形成を重んじ、効果的な**公的、官民、市民社会との連携**で課題を解決する

システムの導入や協業についてのご相談はこちらへ

REXEV

株式会社REXEV（レクシヴ）

恩田 大（おんだまさる）

e-mail : m.onda@rexev.co.jp

TEL : 080-7955-7279

Eight名刺交換QR

